

会 議 録

会議の名称	第5回小金井市保育計画策定委員会	
事務局	子ども家庭部保育課	
開催日時	令和元年7月31日（水）19時から21時15分まで	
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室	
出席者	委員	米原 立将 委員長 八下田 友恵 委員 長汐 道枝 副委員長 飯塚 絵美 委員 福元 真由美 委員 長澤 麻紀 委員 茂森 俊介 委員 井戸下 望 委員 真木 千壽子 委員 竹澤 千穂 委員 大越 郁子 委員
	事務局	子ども家庭部長 大澤 秀典 くりのみ保育園園長 前島美和 保育政策担当課長 平岡 良一 わかたけ保育園園長 杉山久子 保育課長 三浦 真 小金井保育園園長 小方 久美 保育課 松本 俊介 さくら保育園園長 柴田 桂子 けやき保育園園長 池田由美子
欠席者	南雲 明野 委員 吉岡 博之 委員	
傍聴の可否	可	
傍聴者数	14人	
会議次第	1 開会 2 議題 (1)会議録の確定 (2)「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について (3)小金井市保育の質のガイドライン作成の進め方について (4)その他	
発言内容・ 発言者名（主な 発言要旨）	別紙のとおり	
提出資料	次第 資料21 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」 キーワード（カテゴリー分け表） 資料22 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」叩き台 資料23 小金井市保育の質のガイドライン 簡易アンケート調査結果報告書 資料24 小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言	
その他		

平成31年7月31日

開 会

○米原委員長 皆様お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまから第5回小金井市保育計画策定委員会の会議を開催致します。
それでは初めに、議題(1)会議録の確定を行います。前回会議録につきましては、
事前に事務局より皆様に校正をお願いしておりましたが、訂正等のお申し出がな
かったということで、確定ということでよろしいでしょうか？

はい、ありがとうございます。ご異議がないということで、これで前回会議録
の
確定と致します。

では、議題の(2)、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について、
を議題とします。こちらについてはまず事務局より用意いただいている資料があ
りますので、まずは改めて事務局からの説明をお願い致します。

○保育政策担当課長 議題(2)の「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」においてお使
いいただく資料についてご説明させていただきます。資料2 1でございますが、
前回会議の中で「小金井の保育の目指すもの、大切にしたいこと」をホワイトボ
ードを使いまして、同心円の図で表現した内容に、これまでの会議の中での委員
の皆様からの関連する発言を追加させていただいて、カテゴリー毎にまとめたも
のです。

次に資料2 2ですが、皆様から出していただいたキーワードを文章化させてい
ただきました。まとめ方としましては、前文、基本理念、基本目標の三つにまと
めさせていただいたところでございます。こちらにつきましては前回会議の中で
複数委員の方から、どのような形にまとめていくかのイメージがはっきりしな
い、という趣旨のご質問もございました。事前に正副委員長ともご相談の上、ま
とめ方の一つの例としてこちらの叩き台を作成させていただきました。こちらの
叩き台について、文言の追加・削除はもちろんですが、まずはこの前文、基本理
念、基本目標の形式について、これでよろしいかについてまずはご議論をいただ
ければと思い作成させていただいたものですので、よろしくお願い致します。

○米原委員長 事務局からの説明ありがとうございます。本日の議題についてはできるだけこ
の委員会の中で確定させて、もしくは仮にというふうにおいて、こういった理念
というものは振り返るべきものでありますので、細かい訂正、修正というのは残
しておいてもある程度こういったもので進めていこうという合意が取ればなあ
と考えております。そのために資料2 2を使って皆様にご議論いただきたいと思
います。事務局からもありましたが、事前に委員長・副委員長が内容を確認させ

ていただいておりますが、あくまでも叩き台という位置づけで、今回、前文、基本理念、基本目標と三つの分け方をご用意していただいておりますが、分け方についてもご意見いただきたいと思いますが、叩き台はこのような形で用意していますが、このことについてはいかがでしょうか？

○長澤委員　　こういうものを作るにあたって、こういう構成でいくというのは、何かベースがあるのか。他のものを作る時もだいたい前文があって理念があってスローガンで…、今回もこういう形が一番わかりやすいというご提案なのか、作ったことがないので分からないですが、構成そのものがよくあることなのか分からないので教えて下さい。

○保育政策担当課長　今回このような三段階の構成にさせていただきましたが、のびゆく子どもプラン等でも似たような構成にもなっておりますので、珍しい形とは言えないと思っています。ただ、例えば他市のガイドライン単体ですが、ガイドラインを見ると前文にあたる部分がない場合も多々あるかなと思っています。今回事務局の方で最終的にこの形がということで、作成させていただいた一番の意図としては、やはり多くのキーワードを出していただいたその思いが、前文がないとなかなか全部詰め込めないという所がございましたので、前文のところである程度の気持ちを込めさせていただいて、それを集約する形で基本理念を置き、その先のガイドラインの方につなげていっていただくためにも、個別の柱という形で目標というものを立てさせていただいたと。そういうような思いで作らせていただいたものがこの叩き台ということになります。

○米原委員長　　他市の同じような会議に参加していますが、こういった構成というのは決して珍しいものではなく、例えば児童憲章等も前文があって、児童憲章は理念的なものなのですが、理念的な児童憲章があって、より具体的な文言に繋がっていくという形で、そんなに突飛なものではない、というか、構成としては使いやすいものかなと私も思います。他の委員の皆さま、読まれていかがですか？

○竹澤委員　　読まれての感想ではなくて、位置づけについて確認をしたいのですが、世田谷区とか以前4市についての保育の質のガイドラインをいただいているのですが、だいたいどの市でも一番初めにガイドライン作成の趣旨というものがまずあって、それからガイドラインの位置づけみたいなものがあって、その次にくるといってこの「目指すもの・大切にしたいこと」というのが入っているという、そういうイメージなのですが、それともこの保育の質のガイドラインの一番初めにこれがもう出てくる？

○保育政策担当課長　今言っていた後者の方に基本的には当たると考えております。今回お願いしております「保育計画」というものについては、一つが保育の質のガイドライン、そしてもう一つが今後の保育施策の方向性についてという、この二つの部分をまとめたものを「保育計画」と呼ばせていただいております、その両方にかかってくる、一番最初に出てくるもの、というような考え方でお願いをしたいと考えております。具体的には、構成図を以前お出ししたことがあったかなと思うのですが、第3回の会議の時に資料11をお出ししています。この会議の

回の一番最初にあたる資料になります。こちらの右下のところに、（仮称）保育計画という、今回お願いさせていただいているものが枠として入っていて、この中に保育の質のガイドライン、今後の施策の方向性という両方が並んでいるかと思いますが、この両方にかかってくるものという趣旨で今考えていただいているのが、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」というような位置づけとなります。

○米原委員長 最初は保育の計画という、保育計画策定委員会なのですが、ガイドラインという名前で議論重ねていく中で、言い方変わりますがそれを策定する上で理念や基本となるものはっきりしないという事で、色々皆さんからご意見をいただき、今回ベースとなるものをまとめようかな、と叩き台を用意しております。

書いてある内容に関してはベーシックというかどれも大事なことだと思いますが、構成ですとか今のように扱いも含めてなのですが、皆さんからご意見いただきたいのですがいかがでしょうか？

○飯塚委員 内容についてなのですが、3点ほど。叩き台を読ませていただき、自ら生きていくとか、自ら育つとか、自分の力で最後まで生き抜く力を育むとか、ところどころで出てきているのですが、ちょっとこれは意味が掴みにくいというか、参照キーワード群の右側のところの⑩という「自分の力で乗り越えて最後まで生きていく力を育む」「根っことなる部分を強くしなやかにつくる」そこから来ていると思うのですが、この文言を見ると、人によっては自分一人で生き抜くというように捉えられてしまう危険があるなという印象を受けました。これまでの議論の中では小金井市の中で地域と繋がるとか、保護者と保護者で繋がる、園と繋がる、繋がりをすごく大事にしていくというのがあったと思うのですが、自分の力でと言い切ってしまうと、人との繋がりの方向とそぐわないかなという印象が。私の印象としては、子ども一人一人の持てる力を十分に発揮して生きていく、とか違ったニュアンスの言葉を選べた方がいいかなという事が一点目。二点目がそれとも関連するのですが、スローガンの中で子どもの育ちの目標「困難を乗り越え、自ら生きていく力を育みます」というのが、困難を乗り越えるのは目標にすることではないと私は思うんですね。保育の中で色々な人と色々なやり取りをした経験を積んで、時にはトラブルも経験して、その結果として困難を乗り越える力が育っていくというものであって、困難を乗り越える力を育てましょうというのは目標ではない、と私は思うんです。そこを目標にしてしまうと、困難は乗り越えなきゃいけないのか、乗り越えられないのは悪いことなのかというように感じてしまって、本当に自分が潰れそうな時にはさっさと逃げた方がいいと思うんです。そういう力も子どもたちには育ってほしいと思っているので、困難を乗り越えるところに目標にあげてしまうのは、ちょっと違うのではないかと印象を受けました。

三点目は、スローガンのところで、[保護者・保育者・園の関わり]で保護者・保育者が同じ思いで子どもたちの健やかな成長を支えますとありますが、ここで同じ思いと言い切ってしまうといいのか、そもそも立場が違うので、同じ思いに

はなかなかないと思います。同じ思いで育てるのが理想だと思うのですが、ここで同じ思いだよね、と言い切ってしまうのは、ちょっと違和感があって、同じ思いを共有できるよう努めるとか、そういうことを盛り込んでいかないと、最初から同じ思いだよねと言い切ってしまうと、ちょっとそこは危ういのではないかという印象を受けました。

○米原委員長 飯塚さんからのご意見、多分、例えばスローガンで出てくる言葉というのは、例えば前文で丁寧に記載するとか、そういうような構造にも繋がってくるのかなあと思いながら聞いていました。同じ思いというのは前文にも入っていますし、その中できちんと、それぞれの立場で、多分この同じ思いというのは、例えば子どもの最善の利益のために、などとなれば分かるというか、皆が理解できるものになるのかなと思います。

○飯塚委員 誤解のないように、こういう趣旨の言葉ですというのをある程度丁寧に出していかないと、いきなり同じ思いと出してしまうと、人によっては色々な捉え方をされるのかなと思います。

○八下田委員 私もサラッと読んだときに同じところで気になって、自分の力で最後まで生き抜く力、自ら生きていく力というのが入っていて、若干言葉が違ふと意味も違ふのかな、とか。意味が同じだったら言葉を揃えたらほうがいいかなと感じました。あと、お配りいただいた「小金井子育て・子育てパートナーシップ宣言」の中のピンクのお花で五箇所言葉が書いてありますが、左下のところに、「子どもも大人も自律して生きていけるまちをめざします」とあるので、こういった自律という意味では自ら生きていくということの表現は、私は違和感はなかったのですが、三回出てきているので、ちょっと強く訴えたいところなのかなと感じるので、誤解のないようにしていただければと思います。それから、やはり【保護者・保育者・園のかかわり】の同じ思いというところが私も気になって、実際保育園に行くと親はこうしたいと思っても、とか、しつこく心配だったりしても、ベテランの保育士さんによって親の思いが変わったりすることもあるので、ここは保護者・保育者というふうに言い切っているので、前文の方は「わたしたち」というふうにやって、地域や行政なども入っているので、子どもの最善の利益という部分では同じ思いなのかなというふうな事で読み過ぎたのですが、保護者・保育者というのはやはり立場は違って、親は初めての自分の子どもの子育てでいっぱいだったところで、保育者のまた違う助言があって、違う方に行くこともあるので、ここの同じ思いは私も飯塚さんと同様にちょっと引っかかりました。

○大越委員 私もお二人と同じで、「自分の力で」とか「自ら生きていく力を身に付ける」というところがすごく引っかかって、スローガンとしてどうかなというところで、もう少し、豊かな心を育てるとか、人間性とかそういうところで、もう少しスローガンのようになるともっといいのかなと。ここはよく議論したほうがいいのかと感じました。

○井戸下委員 私は今までのお三方とはちょっと違って、そこまで違和感はなかったです。と

というのは、私自身の解釈として、例えば⑩の「自分の力で最後まで生き抜く力を育む」というのは、子ども一人ひとりが、その子が持てる力を、その子が十分に力を発揮できるような環境を大人が作るとか、そういうような意味かなと思って、そのへんが同じ言葉を聞いても解釈が違っていたので、そこはもう少しはつきり分かるように、どういう意図でこの言葉を使っているのかということをはつきりさせた方がいいと、皆さんのご意見を聞いて思いました。

○米原委員長

もしこの構図を使うとしたら、前文でより丁寧というか、多分「生きる力」は小学校以降でも使う言葉なのですが、今飯塚さん他皆さんからご意見ありましたように、「生きる」とか「自律」というのが、自己責任につながってしまうようなイメージ、そうした書きぶりは私もよくないと思います。皆が助け合うとか、特に子どもですから、本当に他の人と協力していく事を学んでいく過程なので、そういったことを含んだ「生きる力」という書きぶりが出来たらいいなと思いました。なので、今、内容の方にも入っていますが、この構図を生かして理念のところを丁寧に書いていくというような方向性で進めたいと思いますけれども、一旦そういう形で進めていって、もしまた何かありましたらご意見いただければと思います。他はいかがでしょうか？

○福本委員

前文、基本理念、スローガンという構図はいいと思います。前文というのはこれを見ると、子どもというのはどういう存在なのかという子ども観、子どもの見方というものが書かれていて、小金井市では保育というのはどういう営みというふうに捉えているのかという保育観というものが後半に書かれていて、そういう内容というふうに捉えるものとして、こういった書き方でいいのではないかと思います。

気になりましたのは、基本理念とスローガンの書く内容の重なりなのですが、基本理念というのは、前文をもとにして、じゃあどういったことを基本方針として保育をしていくのかという事が書かれていると思うのですが、子どもの最善の利益を保障する、という事について、スローガンの方では最善の利益を第一に考える、というように同じ文言が重なっていますので、もう少し基本目標というのは、基本理念をもう少し具体的に、どういう風に重点を置いていくのかというところが見えてくるものの方がいいと思うんです。ですから、今のお話にありましたように、「自ら」というのは、今委員長がおっしゃったように、私も書き方を変えていく方がいいと思うのですが、例えば基本理念のところ、自ら」という言葉を「生きていく力」と書くとしたら、スローガンの所で「自ら生きていく力」というふうにそのまま言葉を重ねるのではなく、やはりそれをきちんと誤解のない解釈が成立するように、そこの部分を丁寧に別の言葉で言い直したり、それをどういうふうに育てていくのかという、方向的なところを書いていくという事の方がいいのではないかと思います。例えば、自ら生きていくという力は先ほど、子ども一人ひとりが持てる力を充分発揮して、とおっしゃっていただけども、そういうふうに書いてみたりとか、様々な人々や地域との繋がりを通して、あるいは多様な体験を通して、というような事を書きつつ、その方法的な部

分ですね、具体化していくと前文、基本理念、スローガンの構造が分かるようになるのではと思いました。

○米原委員長　そうですね、それぞれの対応関係と、言葉が重なる事もあってもいいけれどもより具体的に書くべきところは書くと。この基本理念が一番、ここでは下に記載されているところというのは、子どもの育ち、保育で直接的に子どもに関わることにに関して、それから保護者・保育者への関わり、それから地域・環境ということで、多分これが21の園の、この三つに対応しているものだというふうに思いますが。とするならば、確かに子どもの部分というのは、「困難を乗り越え自ら生きていく力」だけではなくもう少し、環境を通してだとか、それぞれの個性を生かす、だとかというような、より具体化した方がいいなと聞いていて思いました。いかがでしょう？

○長澤委員　皆さんがおっしゃっていた、その子どもの「自分の力で育つ」などの文言に関しては、自分の力で自ら育っていくように保育者の方がそういう環境を作って下さる、というのが保育だと思うので、そこが分かるように盛り込んでいけばいいと思っています。あくまでも小金井市の保育の目指すものなので、「伸びゆく」と同じような子育て全般ではなく、保育というところに特化するのであれば、今まで議論してきた、前回の公立保育園の方針だったりとか、他の保育園の理念だったりとかも、保育園自らがどういうことを小金井でやっていくかというところが見えてこない、「のびゆく」と被ってしまうのかなというふうにイメージがあって、子どもの最善の利益を考えるのも、基本はベースだと思うのですが、そこから地域全体で自然の中で育てていくということも、もう少し、今まで小金井市の保育園が自然環境をどういうふうに生かしてきたかと、積み重ねてきたものがあるので、やはり基本目標のスローガンのところは、より具体的に、もう少し理念があつての次の具体的な部分で、保育園がやってきたこと、保育園がこれから新しい保育園がきてもやってくれるであろうことがイメージできるものがないのかなと思います。なので、理念の中に「安全で質の高い保育を受けることによって」というような文言が入っていてもスローガンの方で、よりその具体的なところというものがあまり見えてこない、そこはやはり、保育に落とし込んだ時に、どういう目標を立てていくのかというのは、入れていったほうがいいと思いますし、前文に関しても、全体的な小金井の子育ての話から、もう少し保育の目指すものについて語っているんです、語るんですよということが分かる内容にすれば、より今まであったものに比べて差別化ができていいかなと思います。

○竹澤委員　基本目標、スローガンのところで、三つ位加えたらどうかなと思うのですが、先ほどから子どもの育ちのところ、「自分の力で生きていく」というところに一人だけで生きていくイメージというのも読み取れますよねというお話で、他者を尊重して、共同して豊かな社会を作っていける力とか、あるいは自分も尊重するけれども他者も尊重する力も持って、共同できる力のようなことも入れて、皆で協力をして色々な環境を豊に作って伸びていくというようなことも、子どもの

育ちに入れていただいたらいいのかなと思ったのが一点と、「自ら生きていく力」という事に入るのかもしれないのですが、自分で道を選択する力という、「困難を乗り越え」というところに、与えられた社会とか親が与えた目標を乗り越える、といったようなイメージも、この困難を乗り越えというところにあるような気もするので、自分で道を選択していく力、というようなところも入れられたらいいのかなというふうに思いました。それから、スローガンの一番下の[地域・環境]のところなのですが、「小金井の豊かな自然の中で子ども達が安心安全に生きていく」と書いてあるのですが、小金井の豊かな自然の中で安心して生きていくというよりも、もっと積極的に、小金井の豊かな自然の、何かそれに関わることで子どもの「生きる力」が伸びていく、そういう環境を作る、というところも書いていいのかなと思いました。

○井戸下委員　　今のお話だと、保育は0歳～6歳ですよ。ちょっと目標にするにはハードルが高すぎるというか、保育所保育指針等にも、その時期の目指す姿は“なんとかの芽生え”や“なんとかの基礎”など、“なんとかの芽生え”を培うと沢山使われているので、もちろん自分で道を選択していく力は子どもたちには付けてほしいと私自身も思いますけれども、その力をつける事を保育で目指すというよりは、そのための基礎・基盤作りというか、それを目指すのが保育かなと話を聞いていて思いました。

○茂森委員　　このような生きていく力というものは、うちの保育園でもある程度掲げていたりするのですが、こちらの目標は六年保育、0歳～6歳までの保育園で、最後小学校に上がった時に、経験を生かして怪我をしないとか、自分で工夫して色々な事ができるような、という意味があるのですが、認可保育園には小規模0，1，2歳の保育園がありますよね。そうするとこのような目標が当てはまらないという感じがします。確かに、「困難を乗り越えて」というのは、乗り越えなくてもいいと思いますし、失敗したことを何回もチャレンジできるような、そういう意味合いの方がいいと思います。

○米原委員長　　真木さんはいかがですか？

○真木委員　　誰の視点に立っているのかなと。基本理念の文言を考えた時に。あくまで子どもの視点に立って言っているのかなとか色々頭の中がごちゃごちゃしていますが、一人ひとりの子どもの寄り添う保育を展開していく、子どもの権利条約に沿って。という事であれば少し文言も変わってくるのかなと思いつつながら、皆さんの意見を参考にしながら頭の中で分析しているところです。

○大越委員　　資料21で、皆さんからすごく良いキーワードがたくさん出ていると思うんですね。真木先生からもあったように、子どもの気持ちに寄り添うとか、さっき飯塚さんからあった、保護者・保育者が同じ思いでということも、保護者・保育園のところにあるように信頼関係を作るというキーワードがあるかなと思うのです。確かに保護者だけ努力してもダメだし、保育者側だけ努力してもダメ。お互いの努力で信頼関係を構築して成り立つものなのかなと思うので、このキーワードをもっと活かしていったほうがいいのではないかと感じました。

○八下田委員　　今の大越さんのところで、ちょっと考えたのですが、スローガンの三つ目の[保護者・保育者・園のかかわり]のところで、“保護者・保育者が同じ思いで”のところを“保護者・保育者が思いを伝え合う事によって信頼関係を作り子ども達の健やかな成長を支えます”というのはいかがでしょうかと思いました。もしこのスタイルを生かすのであれば。

○長汐副委員長　参照キーワードの①のところに、「全ての子どもを対象」とあって、その下に「障がいを持った子ども、外国籍の子ども、異年齢の子ども」とあるんですね。色々な育ち、発達の弱さを持ちながら保育園に来ている子どももいるし、多様なお子さん方が、お子さん達自身で多様性というか、弱さのある子どもも含めて小さい時から理解していくという、それぞれのお子さんの特性として理解し合う、という事、それが子どもの優しさに繋がっていくのかなと。他者の存在を受け止めて優しくなっていける、そういったものがどこかの文言の中に入るといいなと思っていて、キーワードの①のところにせっかくこういうのがあるのだけれど、それがどこかに入って、多様性ということを尊重するという文言になるのか、あるいは一人ひとりの子どもの違いを認めて寛容になるというか、受け入れていく、そういった寛容さというものが入るといいなと思っているのですが、基本理念なのか、スローガンなのかその辺は分からないのですが、その辺が付け加えられるといいかなと思いました。

○米原委員長　　ほかはいかがでしょうか？

○竹澤委員　　先ほど井戸下さんが子どもなので、子どもにとってはとても大きなというか過大な目標だというようなお話だったのですが、硬い表現でお話をしてしまったのでそう感じを受けられたかなと思うのですが、他者も尊重してというよりも、思いやりを育てるといような、思いやりを持って生きていける子ども。そういう育ちを助けるというよな。もちろん将来はそれで豊かな社会を築いてほしいという思いがあり、もちろん根っここというか元になる、お友達を思いやるとかそういう力を子どもの育ちとして育てていきたいという事とか、そのまま自分で道を選択するというのはすごく硬いのですが、先生に受容的に関わってもらおうという事は、自分の気持ちをとても大切にできる、そういう関わりをしてもらうことで、自分の気持ちとか思いとかというものを尊重していける子どもに育っていくと思うんですね。それで自分の選択というものに自信を持って生きていける、そういう土台というものは子どもの頃の身近な人の関わりの中で育まれるのかなと思っているので、そういう子どもの育ちの中に自分を大切に出来る、自分もお友達も大切に出来るというんでしょうか、そういう育ちを援助するという、そういう事を入れたらどうかと思います。

○福元委員　　基本理念の3行目に「安全で質の高い保育を受けることによって」という文言があります。この質の高い保育というのが、現代の保育の一つのキーワードとして重要だと思いますけれども、その次のスローガンのところに、質の高い保育を実現するための事項が含まれていないように思いますので、それを何らかの形で付け加えていくと、基本理念とスローガンの繋がりとというのはもっとよくなるの

ではないかと思えます。やはり保育の中の保育の内容であつたり方法であつたりに関わることで、何を抜き出してくるというところを、見たところあまり資料21のキーワードのところでは見つけられないのかもしれないのですが、一般的な所が多いように思いますので、小金井の保育の、前回配られた資料ですとか、今回配られた保育の質ガイドライン等をもう一度精査して、何らかの形で文言を検討するとより良いのかなと思いました。

○長澤委員

これがガイドラインの前にですよね。その時のそのガイドラインを私達は目にした時にこの理念や前文を見て、私達は何を感じ取ればいいのかとか、この理念を見たら、「小金井市で子育てをしたいな」と思うのか「小金井市の保育園に入りたいな」と思うのか「小金井市に家族で楽しく住みたいな」と思うのか、どれくらい絞られるのかちょっと分からなくて、先ほど真木先生がおっしゃった、誰目線？というか、保育園を選ぼうと思った時にこれを目にしたら参考というか何かイメージが出来るのか、あるいは保育をしている保育者の方たちがこれを見た時にこの理念を基にきちんと小金井の子ども達を育てなければいけないと思うのか、分からないんです。それですごく中身が変わる、誰が見てどう思うものなのか、この後にガイドラインが続くというのはどういう意味があるのか、つてもう一回整理してもらってよろしいですか。

○保育政策担当課長

今長澤委員からおっしゃっていただいた部分ですが、基本的に保育の質のガイドラインについては、まず一義的に使っていただきたいのは保育者側の方、とイメージしています。ただ、それに対して保護者側にとっても理解を進めていただくと言うか、そういうような視点でも考えているというところもあって、双方の視点が入ってしまっているというところがあるのかなと思っておりますが、基本的にはどういう保育をしてどういうお子さんを育てるか、育ててもらおうかというところが一番の視点とされていて、基本的には保育者目線ではありますが、保育者だけが保育をやっていればいいのかという視点ではないというところから、「わたしたち」というところから始まってこのような書き出しになっているというところなので、なかなかズバツとストレートにきれいな形に整理するのはなかなか難しいかなというところはあるかなと思うのですが、そのような視点で事務局の方としては作らせていただいております。

○米原委員長

福元さんからもありましたが、質の高い保育というものをどう考えるのかといった時に、避けて通れないのはやはり質の低い保育、というものをできるだけ減らしていき、更に高める。施設での保育で気を付けなければいけないことは、民間でも公立でも先生方がいつも気を付けていらっしゃる事は、多分集団生活であるということと、子ども一人ひとりの気持ちだとか権利だとかを守っていくことのバランスを、どう取っていくのか。簡単なのは、というか、易きに流れるのは集団を大事にするということで、個々の育ちや個々の気持ちというものをちょっとないがしろにしてしまう。でもそうではないという事を多分、専門家としての保育者というのは、集団の中でもそれぞれの気持ちを守るということを多分大事にしていらっしゃると思うんですね。一つの例ですが、例えばそういった視点と

というのが、質の高いという事を考える物差しだと私は思います。それが子どもの最善の保育だとか一人ひとりというキーワードと繋がっていくと思うのですが、多分保育園に子どもを預けた経験がある方、実際にやってらっしゃる方、「あ、こうだったらもっといいな」とか「こういった話聞いたけれども心配だな」という事もあるかと思うので、ここになかなかワードは出ていなかったということもありますので、もしこれは付け加えておきたいなということがありましたら出していただくと、より、保育の目指すものが表現できると思います。

○長澤委員 保育者に対してみるガイドラインというのがまず第一に、というのであれば、例えばどの保育園の保育者の方が読んでも、小金井のどこの保育園で働いてもそれなりに質の高い保育をしているんだな小金井市は、という専門性が見えるものとか、親でも皆が協力したら出来ることではなく、保育園でこういう子どもを育てることプラス地域の子どもの育てる家庭を支えることだったりとか、先ほどおっしゃった多様性の象徴だったりとか、保育園に入れない子も、もしかしているかもしれないですが、そういう家庭も含めて地域に繋がっていく役割を保育園というのはあるので、前の時にはグループワークの時には出たと思うのですが、そういう存在であるから親が安心して保育園に子どもを預けられるというところもあるので、その保育園の役割みたいなのところも基本理念に入れていくべきだと思います。子どもの事が中心にはなっていますが、もう少し地域との関わり、保育園との地域との関わり、保育園と保育者との関わり、保育者側からの専門的な保育内容が分かるものがないのかなと感じました。

○八下田委員 福元さんがおっしゃって下さった質の高い保育を目標におとした時のキーワードが、私はこれかなと思ったものが見つかって、資料21の保育園の6個目の「職員自らの資質を高める」というのも、質の高い保育のキーワードになるのかなと思っていて、あとはもう少し下で「保育者を支援する」というキーワードがありますが、その主語が「行政が」ということにして、行政が中心となって保育者を支援する仕組みのようなものがあれば、質の高い保育者や、職員の資質が高まるのかなと思っています。その二つ下の「保育園同士の関係構築」というキーワードがありますが、園同士でも関係を持ってというのは、小さな認証（保育園）なども安心して他園と連携が取れる市であるんだという事が分かって、これも質の高い保育の具体的なキーワードに繋がるのではないかなと感じました。

○飯塚委員 先ほどガイドラインが保育者が使う事が第一の前提としていくとご発言があったのですが、そうやってこの文章を読んでいくと、すごく当事者感が薄いなという印象がありまして、福元さんがおっしゃったような、安全で質の高い保育をするために、では何を具体的にしていけばいいのかとスローガンで上げて、更にそれをもっと細かいところをガイドラインに盛り込んでいくというイメージでいいのかなと思うのですが、そのところがすごくこのスローガンだけだと曖昧だなと思います。

○大越委員 公立保育園の先生のご意見を聞きたいのですが。今まで何十年も小金井の中で保育の歴史を積み重ねてきていらっしゃるの、公立保育園から見たこういう理

念とか、これだとどういうふうに映るのかなとご意見いただきたいのですが。

○米原委員長　なかなか勇気のいることかもしれませんが、参考までに何か出していただける方いらっしゃれば、よろしいですか？

○小方小金井保育園園長　前回多分私が話した台詞がいくつか出てきているかなと思っていました、何か、でも私の伝え方が悪かったんだなど見て思ひまして、上手く伝えられなかったな、どうしようかなとずっとドキドキはしていました。上手くは言えないのですが、人生の根っこを育てる場所が保育園だという話はしたのですが、将来的に見て、一人ひとりの人生を生き抜いてほしいという話をしたのですが、それは保育園の目指す最終的なその子の人生こうであってほしい、と思うわけであって、私は保育園でやるべきことが、困難を乗り越えたり、歯をくいしばって生きる、というような事で言ったつもりはなかったのに、なんか申し訳なかったなと思ひながら聞いていました。他者とだったり、自分の中に溢れる感情だったり、その辺と折り合いをつけて生きていくための根っこ、芽生えとさっきおっしゃっていましたけれども、そこの部分が保育園だと思っているので、すごく困難を超えるために飛び越えていくような文言になってしまっているのが責任を感じて申し訳ないなと思ひていたところです。

○前島くりのみ保育園園長　とても大きな課題なので、園としてというよりは個人的な保育士をしているの意見になってしまうのですが、小金井市の中で保育のガイドラインを立ち上げるにあたって、小金井市の中で保育園に入っていない小さいお子さんも保育園を利用したり遊びに行ったり、小金井市で育つお子さん全てに同じようにいい環境で育ててほしいというのがあるので、保育者向けにというお話があったのですが、個人的な私の思いとしては、保育に関わる全ての、保育園だけではなく、職員とか保護者の方も含めて読んで、難しいとは思ひのですが、こういう所で子どもを育てたいと思ひし、私達もこういうふうに育ててほしいというようなものもいいなと思ひます。とても大きなまとまらない意見なのですが、保育園だけではなく、関わる人全てが読んで「いいな」「小金井で育てたいな」と思ひようなものでありたいなと思ひます。

○米原委員長　ありがとうございます。それでは前に戻ります。はい、真木委員。

○真木委員　皆さんの意見を伺っていて、保育の質っていうのは見えにくい。とても見えにくいので、それをやはり可視化をして色んな想定の上に保育園をやるのですが、社会全体で保障する必要性は絶対にあると思ひますね。なので、保育園だけではなく先生がおっしゃったように、家庭にいる子ども達も小金井にいる全ての子ども達が質のいい保育を、育児ですよ、家庭保育になりますよね。そういうものを受けられるように、そういうような全ての事を含んだガイドライン。幅が広すぎて難しいのですが、でも皆さんが言わんとしている事は社会全体で保障していかなければいけない。じゃあ、どれが質が高くてどれが質が低いか、園庭がない保育園でも質の高い保育をしているかもしれないし、という事も考えられるし。保護者の立場、保育士の立場、行政の立場とそれぞれの立場は色々違うと思ひのですが、社会全体で支えていかないとはいけないと思ひています。

- 米原委員長 今日一緒に見て考えを深めている「目指すもの・大切にしたいこと」というのが子どもが育つという全般に関わる事だと思います。ただ、この後に続くガイドラインに関してはやっぱり保育。保育と子育てってかなり重なりますがやはり違うので、そこに関しては保育、これは突き詰めるととても大変な議論になってしまうのですが、家庭の子育てとは違うという、ざっくりとした言い方で、保育で使えるガイドラインという。なので「保育の目指すもの・大切にしたいこと」というのは保育だけれどもベース、今真木委員がおっしゃったような、社会で子どもが育つということの理念的な事をきちんと表現できたらいいなと思います。
- 福元委員 私も真木委員がおっしゃったような、社会全体でというのはもっともな事だと思います。そういった考え方を示すことが、前文であったり、委員長がおっしゃった基本理念というところで、今回のガイドラインの重要観点は保育者の専門性に関わる部分で、それを認可園に限らず、様々な形態を持っている施設での保育の中で活用できるものとして、いかに作っていくかというところを考えていくのかなと思いますので、そういった形でやっていく方が、方向性も定まってくるのではないかと思います。
- 米原委員長 だいぶご意見も出ていますが、どうでしょう茂森委員、公立・民間と分けることはあまり望ましくないと思いますので、同じく小金井で保育を実践されている立場として何かご意見ございませんか？
- 茂森委員 ございません。ございませんというよりは、難しすぎて答えが出ないというか…。
- 米原委員長 公立保育園と言われるものは一般的には同じ方向性で保育を出来る一つのグループです。民間園というのは、それぞれの法人の保育理念だとか方針があるので、個性が保育のやり方があるので、長くやられている民間園の中で「うちの小金井の保育はこうだ」というものも多分あるかと思います。でもそれを全て包摂するとか、今話を深めている理念とかスローガンだと思いますので、公立の先生方の意見も十分に尊重して作っていければと思いますので、どうでしょう？ある程度意見が出ているので、ここでちょっと出たキーワードを再び確認させていただいて、基本的にはこの構造で、そういったワードをより盛り込んだ形で整理をしていく、というふうに進めたいと思います。
- 大越委員 私は小金井の保育園で育ったのですが、子どもの視点も入れてもいいのかなと少し感じたりして、資料21にある保育園という左側下から三行目位からの「夢中になる経験」とか「楽しめているいろいろな体験が出来る」とかってすごく大事ななど、その時にしかできない事ってすごく多いのかなと思っていて、私も保育園で経験したお祭りでおみこしを作った思い出とか、キャンプファイヤーして皆でお泊りした思い出とかまだすごく残っていて、そういう経験はいつまで経っても、きっと子どもの中に残っていくのかなという、そういう視点も入れていただけると子どもからの視点が入っていいのかなと感じました。すごく大人目線という感じがあったので。
- 竹澤委員 先ほどから「質の高い保育」というお話があると思うのですが、質の高い保育

というのは、やはりどういう子どもに育てほしいかというビジョンがあって、それに対して質が高いとか低いとかという事になると思うんですね。なので基本目標のスローガンのところに「子どもの育ち」というのと、みんな同じような分量で書いてあるので、やはりどういう子どもに育つ保育を小金井市は目指しているのかというのを、この「子どもの育ち」の所を三行くらい書くとか、今子どもの目線というお話もあったのですが、同心円にする、もちろん子どもが中心なわけなので、どういう子どもに育て、それをもう少し分量もスローガンの所で多くしてもいいのかなという印象を受けました。

○米原委員長 はい、他はいかがでしょうか？

○長澤委員 前文にある「わたしたち：保護者、保育者、地域住民、行政など」と書いてありますが、先ほどお話にもあったように、保育の専門性みたいなところも含めて、そういうものがあって子ども達が夢中になる経験をさせてもらえるような環境を作る、色々な体験をさせてもらっていると思うので、保護者も主語に入ってしまったていいのかどうかというのが私は感覚としてあって、小金井の保育園で働く保育者達は子ども達をこういうふうに育てていきます、保護者ともこういうふうな関係を保ちます、未来の子ども達のために職員の資質を高めるよう努力します、とかそういうふうに繋がってくるのかなと思って、保護者も入れてしまうとどうしても子どもをどうしたいかというところがごちゃ混ぜになってしまうのかなと感じました。主語はこのままでいいのか分からなかったのですが、そう感じました。

○米原委員長 私も保育士なのですが、保育士の感覚からいくと、子どもが夢中になって遊ぶだとか多様な体験をするためには保育士だけでやるものではないと考えていて、本当に地域との関わりの中でその子その子にとって多様な経験が、地域の中でやっと実現できるのかなと考えています。保育のガイドラインって後ろにつないでいく時には資格を持っている、持っていないに関わらず保育者と言われる人が主な対象になるかと思うのですが。

こちら前文、理念的なものに関していかがでしょうか？

○井戸下委員 私はここは前文なので、「わたしたち」でもいいのではないかと思います。ガイドラインに関しては、一応保育者が第一義的には見るというお話がありましたけれども、やはり保育者だけが見るものではないので、もちろん後ろに続く内容は保育者向けなのか保護者向けなのかで文言の書き方も変わってくると思いますけれども、一番最初のところは小金井市に住んでいる、小金井市で育てている子ども達を保育者も保護者も関係なく、大人が、小金井市と社会が皆で見守っていくという思いも込めるのであれば、「わたしたち」でいいのではないかなと思いました。

○真木委員 保育のガイドラインにあたっては「質の向上」という部分がいつも上にあってということで、その質の向上、そういうものに少し焦点を当ててみると、一番最初の時に私がお話したと思うのですが、一つ目は保育者の力量の向上、二つ目は園としての力量の向上、それを含めて保護者を含めて地域全体の力量の向上、そ

れを支援する行政の支援力の向上、それとも一つ学識経験者、それこそ専門家の色々な意見を入れていただく在り方、そういうのも含めて、色々な話が出ていますが、話がその会議その会議でぶち切れになってしまうので、以前話した事の中で良いこと皆さん沢山言っている、言っているその意見を取り上げながら、このキーワードの中にもそれが入っていると思うし、最初に配られた色々な資料の中にも素敵な文言がたくさん入っている、それもまとめていきながらやっていると、その回その回でぶち切れになっている感じがするので、時間ももったいないなと思いながら、そういう感じがしながら会議に参加しております。皆さん感じている事、思っていることは同じなので、それを言葉でまとめていけるといいのかなと今一所懸命考えていると思うのですが…。

○保育政策担当課長　今まで皆様方にご意見を出していただいて、今回このような形で事務局の方も資料として出させていただいたところで、委員長の方から先ほどお話がありました、この三段階の体裁については皆様方から特段ご異論はなかった確認があったかなと思っております、具体的な言葉の伝え方とか、そういったところのお話に入っているかなと思っております。今まで出ていた意見を可視化できればよかったのですが、なかなかそこまでいかない状況でしたが、言葉としてこのまま繋いでいくにあたっては、もしよろしければホワイトボード等もあるので、使いながら言葉を繋げていくと、繋がりがとかいうところも出てくるかと思うので、そのような形で引き続き、お話を進めていくような形でお願いできればと思っておりますがいかがでしょうか？

○米原委員長　ホワイトボード使うとなったら…時間も限られていますので、ここで細かい文章を完成させるというところ…。

○保育政策担当課長　皆さんがしゃべったことが書いてあるわけではなく、一番最初の案が書いてあります。余白があまりないので、そこに書いていったら多分追いつかなかったのかなと思うのですが、いくつか言葉等でご指摘があったところもあったかなと思いますので、その辺りをまとめていく形で事務局の方でご協力できればなと思っております。例えば「自らが育ち」…。

○米原委員長　「自らが育ち」はそれでいいんだけど、多分「自ら生きていく」というような感じで、そこが気になり、こことは繋がっていないというような話だった。あとは「同じ思いでつながり」というところも少し誤解がないような書きぶりです。

○飯塚委員　「自らが育ち」って、ここでずっと議論してきて、「子育てじゃなくて子育てだよね」と前提を知っている人なら分かると思うのですが、いきなり「自らが育ち」と言われたらよく分からない方もいると思うので、そこもやはり補足が必要ではないかなと思います。

○米原委員長　あとは、文章として、「育ち、育っていくために」と重なっているの、ここちょっと。

○福元委員　一つ一つ修正していくんですか？

○米原委員長　そうすると時間も足りないの、どういう事が話題になったかという確認だけ

でもさせていただいて、その時間はコンパクトにまとめられればと思います。

ここの「子どもの育ち」に関しては、もう少し具体的にというか、保育の質にも関わることだし、もう少し厚く表現をしたらどうかという色々な話が出たかと思えます。それが自分を尊重するだとか、結果的には他者の尊重に繋がる等々ご意見ありましたね。

これは質が高いんだということは、真木先生がおっしゃったように、とても難しいので、皆で質を高めるというような方向性ということを示すような、そういったイメージも持った方がいいかと。自然の中から育っていくだとかというお話も出ましたし、そこに関しては、細かい事に関しては録音で記録を取っていますが、けれども、せっかく今皆さんお集まりいただいているので、ここだよ、こうやって見ると公立はもう少し丁寧に表現したいよね等、話あったらいただけますでしょうか。

○長澤委員

これ、この下にガイドラインがつくって、ガイドラインって質の高い保育を保つために重要になってくると思うんです、ガイドラインの内容って。理念があって基本目標があるので、理念を少し具体的にしたもののが目標だと思うのですが、基本目標を更に具体的にしたものをガイドラインにしていくという流れで、ガイドラインは質の高い保育、担保する内容にしないといけないと思うんです。どの保育園も質の高い保育を保つために。だから前文はどっちでもいいのですが、基本理念から目標に下りてきて、目標からガイドラインという流れを頭に入れながら作っていかないと、ふつとそこだけ今考えても、下のガイドライン作る時にまた色々な意見が出てきてしまうので、質の高い保育は残しておくべきだと思う、そのためのガイドラインなので、そこをより具体的にする目標、若干厚くするにしても保育の専門性を盛り込んだような内容で今出てきたようなキーワードを入れて、更にガイドラインのそれぞれのタイトルになるようなものを作っていくべきだと思うのです。細かい所は分からないですが。

○福元委員

質の高い保育を入れるということについてなのですが、質の高い保育というのはやはり時代、地域によって変わっていくので、なかなかこれと表現するのは難しいと思います。ただ、いつの時代でも、どの地域でも共通するのは、一人ひとりの子どもの個性的で豊かな育ちや発達に必要な様々な経験や体験を保証していくというのが、やはりそれが質の高い保育と言えるんだと思うんです。私はちょっとそういう事をイメージしながら基本目標でどう、もう少し表現するのがふさわしいかとか、どういうレベルの文言にするかということについては考えているところなのですが、一人ひとりの個性的というのはさっき副委員長がおっしゃったような、障がいを持っているお子さんだったり外国籍のお子さんだったり異年齢のお子さんだったりというような多様なお子さんについても個性的な育ち、そういう必要な体験が多様にできる保育というものを、じゃあどういうふう to 実現させていくかというのがガイドラインに書かれていて、それがガイドラインに書かれているということが現代の小金井市でやることと限定されていくと思うのですが、そういった事も考えられると思いましたので、書き方について検討いただ

ければいいなと思います。ちなみに今まであったキーワードで重要だと思っているのは、おっしゃって下さった、力そのものが6年間で育つというわけではなく芽生えだったり基礎であったり基盤であったりというところが保育所保育指針でもきちんと謳っているところなので、細やかに文言を使っていったほうがいいなと思いますし、子どもが夢中になる体験を通して様々な学びをしていくということも幼稚園教育要領や指針とかで謳われているので、そういうものをキーワードにしてもいいのではないかなと思います。

○米原委員長　　こうやって共有できると、次にまとめた時に、ここはこうだときちんと今回の議論を引き継げるので、これ使って良かったと思います。他いかがでしょうか？

○茂森委員　　基本理念ということで、うちの保育園、保育士がすごく不足していますが、うちの保育園に就職してくれる方って、保育理念がすごく気に入りましたと言って下さる方がいるんですね。この保育士不足の中、小金井市に保育士を集めるという意味では、小金井市のキーワードを入れて、小金井市で働きたいという保育士の方がいれば、質の向上にもつながると思いますし、小金井の豊かな自然の中で最善の利益を保障し、うちの保育園でもやっぱり小金井の豊かな自然を利用して質の高い保育をしていると思うんですね。小金井市というのが特化したというところがすごく難しいのかなと。

○米原委員長　　これに続くガイドラインに関しては、これはもう副委員長や事務局とは簡単に話をしているのですが、やはり保育所保育指針という存在はとても大きいので、その構成だとかに沿ったものをイメージしています。質の高い保育というものを少なくともだいたい10年ごとに最新の知見を踏まえて、子どもにとってどんな保育がいいんだろうかということを中心に議論を重ねて作ったものですので、保育指針の中でもこの小金井の保育として大事にしたい事に沿ったものをよりきちんとピックアップ、クローズアップしたようなものになるのかなというイメージを持っております。

それでは、もちろんここには表していませんが、これまでご発言・ご意見ただいて出たものに関してそれをまたまとめまして次回に出していきたいのですが、繰り返しになりますが、基本の構成はこれでやっていく、内容に関してはまた次回お示しする。ただ、案の段階ですけれども、もちろんそれをご議論いただきますが、今後はガイドラインについても進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか？

○保育政策担当課長　　今回叩き台ということで正・副委員長とご相談させていただき出させていただいたものについて、様々なご意見をいただいたところでありまして。なかなか文章を作り直してこの場でいくというのも難しい状況の中で、様々なご意見をいただいたと思ってございますので、それについては委員長からも言っていただきました通り、出して頂いた意見について反映したものでまた皆さんの方にご確認いただくというような形で事務局のほうで準備をすすめたいと思っております。あわせて事前に皆様の方でお目通しいただいて、事前にご意見なども頂戴してそれをまとめていく作業も次回に向けてお願いさせていただく場合もあるやもしれ

ませんけれども、今回いただいた意見を反映したもので、そちらについてはリライトというか修正を加えていきたいというふうに思いますのでよろしくお願い致します。

○米原委員長　そういった流れで進めていきたいと思います。当然更により良いものにするというのがありますけれども、それを踏まえてガイドラインというのはどういうふうにしていこうかという議論の時間も取っていくようになりますので、宜しくお願い致します。

それでは今回の議題の3番、小金井市保育の質のガイドライン作成の進め方について、まずは事務局から説明をお願い致します。

○保育政策担当課長　保育の質のガイドラインの進め方の議題について事務局の方でご提案ございます。本日「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について様々な意見をいただいたところです。ご意見を踏まえた内容で、具体的な保育の質のガイドライン、こちらの作成に委員会として入っていただくとところかなと思っております。ガイドライン自体を作成するにあたりましては、考え方としては何もないところから一から書いていくという方法もありますが、なかなかそれは現実的ではないということもあり、先ほど委員長から言っていただきましたが、保育所保育指針というのが何事にも基本になるという考え方も持っておりますので、もし皆様の方で差支えがなければ、今回出た意見も含めまして、今まで資料としてご提示しましたいくつかのガイドラインですとか、公立保育園の保育内容など、それらを参考とさせていただきながら、国の保育所保育指針の項目を基本として、簡単な叩き台を事務局の方で一度ご用意をさせていただき、それを基に具体的にご議論を進めていく方法はいかがかと思っておりますので、具体的な作業の仕方について少しご議論いただければと思います。

○米原委員長　今事務局からまず叩き台を作ってそこから議論を進めていただくのはどうかと。その叩き台は保育所保育指針をベースに作る、多分これは全くゼロから作るわけではなく、公立保育園のものですとか他のもの、色々なエッセンスを参考にするかと思うのですが、まるっきり他市のまねではなく、これまでの議論に基づいて案を作ってくれるということですが、いかがでしょうか？

○飯塚委員　以前他市のガイドラインを資料としていただいたと思うのですが、事務局としてはいただいた資料の中で箇条書きにしてある市と文章で書いてある市がありますが、こういった形で考えているか教えて下さい。

○保育政策担当課長　事務局の方としましては、チェックリストの方は更に細かいものとなりますので、チェックの手前のところまでのものをいったんご用意できればというふうな考えをもっております。

○米原委員長　チェックリストにするかどうかというのは、我々で議論をしていくと。他はいかがでしょうか？

はい、それではガイドライン作成の進め方については、まず叩き台を用意していただき、そこから進めていくということでさせていただきます。

それでは次は（4）その他について、事務局より案内事項等ありますので、よ

ろしくお願い致します。

○保育政策担当課長 それでは資料23について簡易アンケートの結果がまとまりましたので、簡単にご紹介をさせていただければと思います。今回アンケート結果ということでまとめたものでございますが、やはり皆さん精力的に記述をいただいたところでして、かなり記述部分、全文を載せますとこのボリュームという状況です。全体をご説明するのはボリューム的にも多い状況ですので、簡単にいくつか例示をさせていただきながらご説明とご報告をさせていただければと思います。

まず今回のアンケートですが、東京都が実施している福祉サービスの第三者評価、こちらで用いています17の評価項目について保護者・保育者・両方の立場からそれぞれアンケートを実施することで、市の保育の強みや課題を客観的な形で洗い出してガイドライン作成ですとか今後の保育計画の作成の参考にしていただくということを目的として行ったものです。アンケートの見方ですが、1ページ目、2ページ目に文章になっておりますが、こちらが調査の概要としまして、アンケート対象、回収率等について記載しております。3ページから20ページが第三者評価の17項目について、保護者の方と保育者の方それぞれの回答の集計について行ったものでありまして、若干コメントもさせていただいております。内容について多岐に渡りますので、若干特徴的な部分についてご紹介させていただきます。

まず3ページ目をご覧ください。(1)ということ、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」という項目ですが、こちらについて見てみますと、次の4ページ目、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」という部分にも共通しますが、保護者の評価は非常に高い数値となっております、また保育者側としても高い割合で特に力を入れている項目、ということ認識されていることが分かります。一方で例えば7ページの(5)保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか、ですとか、8ページの安全対策、それ以降、項目7や12、最後の17、このあたりについては項目1、2と比べますと保護者・保育者共に高くない結果となっているという状況です。1と2については評価が高い分力を入れており、保護者の評価も高く、一方で運営部分の先ほどご紹介した5、6、7、12、17については比較的評価が低く、また保育者側としても課題という部分になるかなと思っております。こちらについては、単純な分析という部分にはなりますが、やはり保護者・保育者の方が両方とも高い部分ということが小金井の一つの特徴と言えらると思えますし、逆に低い部分に関しては課題となっていると見ることもできると思えます。具体的にはそれぞれの項目について、講評を簡単に書かせていただいておりますので、こちらも含めて参考にしていただき、今後のガイドラインの作成や保育計画作成の参考資料としてご活用していただければと思っております。

○米原委員長 ありがとうございます。すごくボリュームがありますがあくまで簡易アンケートということで、保護者アンケートの結果というのは、第三者評価の結果をここに掲載している。今回取った保育者のアンケートの結果、小規模保育に関しては

ここで取った結果ですね。ということで、並べて見る事ができる。かなり簡易ではありますが、丁寧に…。ボリュームもあるものですので、ぜひじっくり時間を取って見ていただければと思います。アンケート全般的な事や今聞いておきたいことがある方いらっしゃいますか？

○竹澤委員 8ページの安全対策が十分取られていると思うか、というところが、予想外に認可施設の保護者の評価が小規模保育よりも低いという感じが受け取れるのですが、理由と言うのは市側としてはどう考えていらっしゃいますか？

○保育政策担当課長 こちらに関しては一概にはなかなか言いにくいのですが、市としては、小規模保育は平成27年からできた新しい制度ということで、簡単に申し上げますと施設が新しいので、その時代に合ったセキュリティー対策がなされているということがあります。一方認可保育園におきましては長い歴史の中で行われてきたという部分もございますし、園庭があったり敷地が広いということもあり、比較すると心配な部分が多くなってくるかなということで、決して認可が危険だということではなく、様々な要素があつてのパーセンテージだなどと思っております。

○米原委員長 多分、小規模は0, 1, 2歳のお子さんの保育ですので、お子さんの年代によっても安全対策の言葉のイメージの違いというのが出てくるのかなと思います。それは他の項目でも出てくると思います。例えば子ども同士のトラブルというのでも、1歳児同士のトラブルと5歳児同士のトラブルは違いますので、そういったそれぞれの施設の区分の特徴というのはあるのかもしれない。

○八下田委員 今竹澤さんが認可施設のセキュリティーが低いというお話があつて、ソフト面ではなくハード面がパーセンテージを上げているのかなと思います。今課長からもお話あつたように建物が古かったりするので、あまり近代的な施設になっていないとか、そういう事でこういう結果になっているのではないかなと思います。保育者の方は、保護者と一緒に保育園内の安全点検等を年に一回開いていますし、ソフトの面ではすごく対策されているというふうには感じていますが、ハード面の低さかなと思います。

○米原委員長 この数字だけが一人歩きしないように気を付けたいと思いますが、自由記述等も個々の保育園が載っておりますので、一つの参考にさせていただく。もちろん量的な調査ですので、ある程度の傾向は表しているかと思いますが、今後のガイドラインを検討していく上で大事な資料になると思います。またもし何かありましたら次回以降出していただければと思います。

それでは次回の開催日程について事務局からお願い致します。

○保育政策担当課長 次回の日程は8/21(水)午後7時から801会議室で開催させていただきます。

○米原委員長 はい、もう三週間後ということで、事務局にはこの三週間でいろいろお願いするにあたって、できることできないことあるかと思いますが、お盆もはさみながら忙しいとは思いますが宜しくお願いします。他になにか委員の方からお伝えしたいこととかありませんか？

○長澤委員 届けていただく資料ですが、五日前とかに届くとどうしても前回の議事録の修

正を下さっていると思うのですが、前回がもう思い出せないくらいになっていて、もう少し早く届けていただくと分かりやすいです。

○保育政策担当課長　今回日にちがだいぶ開いているにも関わらずお送りするのも時間がかかってしまったので、会議録の校正と開催通知のご案内の部分もありますので、具体的に分けて行うかですとか、その辺りも含めて検討させていただければと思います。

○大越委員　四月に出していただいたスケジュール、変更前と変更後のスケジュールを出していただきましたが、そこから今どういう状況なのかもまた教えていただくとありがたいです。

○保育政策担当課長　スケジュールについて変更をかけた後、現状どういう状況かということですが、事務局としましては、本日事務局でお時間をいただいてしまいました、こちらの「大切にしたいこと」の確定をする位のスケジュールの運びのイメージを持っておりました。この部分については、次回以降、冒頭かどこかの時間をいただいて、スケジュールの状況については事務局の方で改めてご説明させていただきますが、大幅な遅れというところまでは認識しておりませんが、議論にお時間をもっと使っていただきたいという思いから、若干遅れ気味かなという印象を持っております。

○米原委員長　よろしいでしょうか。

はい、それでは、第5回の保育計画策定委員会、以上と致します。
皆さんありがとうございました。